

# 入試対策講座 国語

## 必ずや合格を誓って！

推薦入試日程；2021年11月21日・22日／12月5日・6日

### 1. 傾向

#### A. 問題数とジャンルおよび点数配分

- 〔一〕 現代文・・・40点
- 〔二〕 古 文・・・30点
- 〔三〕 現代文・・・30点

#### B. 出題形式

**全問マーク式**で**4肢択一式**の出題です。

#### C. 時間

制限時間は**60分**です。

## D. 大問別考察（昨年度分）

〔一〕 現代文・・・論理的文章（評論）あるいは文芸的文章（小説・随筆）

●小問数・・・9～11問（解答マーク数は13～15）

- ・漢字の書き取り選択・・・5題
- ・理由説明問題
- ・空所補充問題（適語補充・接続詞・副詞）
- ・内容説明問題
- ・論旨把握問題
- ・知識問題（文学史）
- ・内容合致・内容不合致問題
- ・趣旨把握問題

など

〔二〕 古文

●小問数・・・8～9問（解答マーク数は8～9）

- ・動作主選択問題
- ・文法問題
- ・内容説明問題
- ・内容説明問題（現代語訳）
- ・理由説明問題
- ・内容理解問題
- ・空所補充問題（知識・文脈理解）
- ・内容合致・内容不合致問題
- ・内容理解問題
- ・趣旨把握問題
- ・文学史

など

〔三〕 現代文・・・論理的文章（評論）あるいは文芸的文章（随筆）

●小問数・・・8～9問（解答マーク数は8～9）

- ・理由説明問題
- ・空所補充問題（知識・文脈理解）
- ・内容説明問題
- ・内容選択問題
- ・趣旨（主旨）把握問題
- ・知識問題
- ・内容合致・内容不合致問題
- ・趣旨選択問題
- ・主旨選択問題

など

## E. 分量

〔一〕 現代文・・・論理的文章（評論）もしくは文芸的文章（随筆）

およそ2300～3400字前後ほどの分量です。

〔二〕 古文

およそ330～800字前後ほどの分量です。

〔三〕 現代文・・・論理的文章（評論）もしくは文芸的文章（随筆）

およそ2500～3600字前後ほどの分量です。

トータルでおよそ5800～6700字前後の分量です。

## F. 学部による出題の違い

どの日程でもほぼ同じ傾向で、分量・質ともに変化はありません。したがって、受験する学部や日程によって学習の仕方を変えたり、問題の対処法を変えたりする必要はありません。焦点を合わせた学習が可能です。

## 2. 2020年度の具体的傾向

① 11月21日実施分

〔一〕現代文（評論）

出典：細谷博『太宰治』

総字数：3400字前後

設問：問一 漢字の書き取り5題

問二 内容説明問題

問三 空所補充問題（抽象語）

問四 空所補充問題（抽象語）

問五 内容説明問題

問六 内容説明問題

問七 内容説明問題

問八 内容説明問題

問九 内容説明問題

問十 理由説明問題

〔二〕古文

出典：『伊勢物語』・・・歌物語

総字数：380字前後

設問：問一 内容説明問題（現代語訳問題）

問二 内容説明問題（現代語訳問題）

問三 内容説明問題（現代語訳問題）

問四 内容説明問題（現代語訳問題）

問五 内容説明問題（現代語訳問題）

問六 内容説明問題（和歌の解釈）

問七 内容説明問題（現代語訳問題）

問八 内容説明問題

問九 内容説明問題

〔三〕 現代文（評論）

出典：松田美佐『うわさとは何か』

総字数：2700字前後

設問：問一 内容説明問題

問二 内容説明問題

問三 空所補充問題（四字熟語）

問四 理由説明問題

問五 内容説明問題

問六 理由説明問題

問七 内容説明問題

問八 主旨選択問題・合致しないもの

② 11月22日実施分

〔一〕現代文（小説）

出典：夏目漱石『三四郎』

総字数：2300字前後

設問：問一 漢字の書き取り5題

問二 内容説明問題

問三 内容説明問題

問四 意味選択問題

問五 内容説明問題

問六 理由説明問題

問七 空所補充問題（語句）

問八 空所補充問題（語句）

問九 内容説明問題

問十 人物把握問題

問十一 文学史問題

〔二〕古文

出典：『日本霊異記』・・・説話集

総字数：約800字

設問：問一 内容説明問題（現代語訳問題）

問二 内容説明問題

問三 動作主選択問題・異なるもの

問四 内容説明問題（現代語訳問題）

問五 内容説明問題

問六 内容説明問題

問七 内容説明問題

問八 内容説明問題（現代語訳問題）

問九 大意選択問題

〔三〕 現代文（評論）

出典：千葉雅也『勉強の哲学』

総字数：3600字前後

設問：問一 内容説明問題

問二 趣旨選択問題

問三 理由説明問題・あてはまらないもの

問四 内容説明問題

問五 趣旨選択問題

問六 空所補充問題（文）

問七 趣旨選択問題

問八 内容説明問題

問九 内容説明問題

③ 12月5日実施分

〔一〕現代文（評論）

出典：古井由吉『漱石の漢詩を読む』

総字数：2800字前後

- 設問：問一 漢字の書き取り5題  
問二 内容説明問題  
問三 内容説明問題  
問四 趣旨選択問題・あてはまらないもの  
問五 内容説明問題  
問六 内容説明問題  
問七 内容説明問題  
問八 趣旨選択問題  
問九 理由説明問題  
問十 内容合致問題

〔二〕古文

出典：『浜松中納言物語』・・・物語

総字数：約740字

- 設問：問一 内容説明問題（現代語訳問題）  
問二 内容理解問題  
問三 内容説明問題  
問四 内容説明問題  
問五 内容説明問題（現代語訳問題）  
問六 敬語問題  
問七 内容説明問題  
問八 理由説明問題



〔三〕 現代文（評論）

出典：溝井裕一『動物園の文化史』

総字数：2900字前後

設問：問一 内容理解問題・あてはまらないもの

問二 内容説明問題

問三 内容説明問題

問四 内容説明問題

問五 趣旨選択問題

問六 内容説明問題

問七 空所補充問題（語句）・組み合わせ

問八 内容説明問題

④ 12月6日実施分

〔一〕現代文（随筆）

出典：白幡洋三郎『旅行ノススメ』

総字数：3000字前後

設問：問一 漢字の書き取り5題

問二 内容説明問題

問三 主旨合致問題・合致しないもの

問四 内容説明問題

問五 内容説明問題

問六 内容説明問題

問七 空所補充問題（語句）

問八 内容説明問題

問九 空所補充問題（語句）・組み合わせ

〔二〕古文

出典：『和泉式部日記』・・・日記

総字数：約330字

設問：問一 動作主選択問題・異なるもの

問二 内容説明問題

問三 内容説明問題

問四 内容説明問題（現代語訳問題）

問五 内容説明問題

問六 内容理解問題

問七 内容説明問題

問八 内容理解問題

問九 内容理解問題

〔三〕 現代文（随筆）

出典：鈴木健二「紙屑とおかしな男」『巻頭随筆』所収

総字数：2500字前後

設問：問一 内容説明問題

問二 理由説明問題

問三 人物把握問題

問四 空所補充問題（語句）

問五 空所補充問題（慣用表現）

問六 内容説明問題

問七 内容説明問題

問八 内容説明問題

問九 文学史問題・該当しないもの

### 3. 傾向の総括と対策

#### ◎現代文・・・論理的文章

論理構成のしっかり整った、割と硬めの評論文が出題されることもあります。どちらかというと随筆のような評論と言いますか、とっつきやすい読みやすい評論が出題される傾向が多いと感じます。そのため、内容を理解することはそれほど困難ではないでしょう。ただし、時間と分量を考えると、単純に大問1題を20分で解くならば、ゆっくり解いている暇はないでしょう。落ち着きながらも正確かつ素早く読んでいくことが求められています。

昨年度は、文芸論、文化論、言語論あたりの出題が多く見られましたが、過去には幅広いジャンルから出題されていました。

以上の出題傾向に対処するためには、普段から硬質な評論文を読んでおくことは大切ですが、読みやすい評論を素早く読む練習を積んでおきたいところです。真っ先に取り組むべきは過去問です。まずは過去問をできるだけ入手してたくさん問題演習をしましょう。その際、時間を意識して解くようにしてください。ほかには、1・2年生のときの現代文の教科書などは格好の題材だと思います。また、進もうとしている学部にもつわる新書、基礎レベルから標準レベルまであたりの問題集などもよいでしょう。新聞の社説やコラムなどより、新聞の文化欄に投稿・寄稿されている、著名（著名でなくとも）な作家の文章を日頃から読むのも効果的でしょう。そして、特定のジャンルに偏ることなく、幅広くさまざまな文章に触れるように心がけておきましょう。著者も物故された著名な作家・研究者から新進気鋭の作家や専門家に至るまで、偏りなく出題されています。

その際にぜひ意識しておきたいことを記しておきます。

- ・単に文章を読むだけでなく、文章の骨格・構成も意識しながら読み進めていきましょう。
- ・じっくりと味わって読むことももちろん大切ですが、ある程度スピーディに読む練習もしておきましょう。
- ・文章全体で言わんとしていることは何か、言葉にしてみたりまとめてみたりするのも力がつくのでおすすめです。
- ・特に筆者の主張がどこに書いてあるか、見つけるための読み方を工夫しましょう。
- ・漢字の書き取り・語句の意味などはそのまま入試として出題されるので、疑問が起こったり、わからないことに出くわしたりした場合には、積極的に辞書を引きましょう。

## ◎現代文・・・文芸的文章（随筆）

文芸的文章では小説より随筆の出題のほうが多く見られるようです。昨年度は、戦前や戦中の旅行についての文章と文学史上の偉人についての文章からの出題がありましたが、それ以前には数学者の文章であったり、雑貨（屋）についての思いだったり、自転車おじさんとの出会いだったり、フェルメールの絵に対する思いであったり、一言でまとめられないほど多種多様です。随筆は、以下に記したように、筆者の経験に基づいて書かれているため、読みやすい（おそらく評論よりは読みやすいでしょう）と思います。しかし、評論ほど論理が明晰でないことも多く、文章内容の関係がつかみづらいかもかもしれません。ですので、読む時には、どういうことか、どういう関係か、意識しながらも、明確に見つけにくい場合はあまり気にせずに読み進めていくのも一つの手でしょう。

随筆は、筆者の経験（E＝見聞・体験・思考など）をベースにして、筆者の意見（O＝主張・感想など）を論じた文章です。随筆も文芸的文章のジャンルに属するが、小説と異なるのは随筆が「実体験」を元としている点です。（小説にも私小説のような作者の事実にもとづいた、あるいは事実に近いものもありますが。）

随筆という文章がどのようなものかわかったので、次に、ではどのように読んでいくべきなのでしょう。それは、随筆という文章の特性に従って読んでいくことです。すなわち、文章を、筆者の経験（E）を確認しながら、それにまつわる筆者の意見（O）を理解するように読み進めていくことです。

対策としては、やはり教科書にある評論・小説・随筆・エッセーを利用できますね。他にも、市販の問題集も利用可能です。さらに、新聞の文化欄に投稿されている文章からもよく入試に出題されることがありますので、普段から読んでおきたいものですね。

## ◎現代文・・・文芸的文章（小説）

昨年度は1題小説の出題がありました。夏目漱石『三四郎』からの出題でした。過去の傾向を紐解くと、小説の出題はそう多くはありません。ですが、たまに出題されることも考えると、やはり無視はできないでしょう。

小説は評論に比べると、言葉や表現が平易であることが多く、我々の実感に沿いやすいと思われるので、一見与しやす<sup>くみ</sup>いと思うかもしれませんが、むしろそうだからこそ誤読したり深読みしたりという恐れがあります。小説こそ、評論以上に、**客観的に読む**ことが求められます。

そのためには、まず、登場人物（とくに主人公）・場所・季節・時間・状況をおおまかにつかむこと。つぎに、場面ごとに区切って理解を進めていくこと。さらに、各場面での登場人物や主人公の気持ちを最優先におさえながら、行動や会話にも気を配ること。とにかく、勝手に想像力を働かせるのではなく、書かれていることだけをもとにして、読み進めていくこと。つねに他の人も同じように読み同じように解釈していると言えるか自問自答すること。以上が肝要な点です。

学校の教科書に収められている題材は、ほんとうに素晴らしいものなので、まずは教科書を中心に勉強を進めていきましょう。ただし、設問が与えられていないので、問題演習という点では、やはり過去問がベストでしょう。しかし、過去問はそれほど小説の出題が見られないので、そのような場合は、センター試験の過去問や市販問題集を利用するのも一手だと言えます。

## ◎古文

昨年度はわりと有名出典からの出題が多かったと思いますが、受験生の中にはそうでもないという人もいたかもしれません。正直に言いますが、それは勉強不足です。昨年度の出典についてのジャンルや作者名や成立時期はおさえておいてほしいです。

もちろん、ほとんどなじみのない出典からの出題もあります。たしかに知っている出典からの出題ではタイトルからジャンルがわかり、ある程度文章の流れがわかるという利点があります。しかし、知らない出典だから読めないわけではないでしょう。出題者もそのことをふまえて出題しています。ですので、知らない出典からの出題だとわかっていても慌てる必要はありません。

したがって、古文の学習はまずは有名出典をひとつお押しさえていくのがよいでしょう。いくら著名でない出典から出題されると言っても、それを自分で予想するのはかなり困難なので、むしろ、さまざまなジャンルに触れながら、かつての先人がどのようなことを考えたり、意識したりしていたかに思いを馳せ、たくさんの古文に接していく姿勢が求められるでしょう。

そして、的確に古文を味わい、理解するためには、単語・文法・古文常識にも配慮しながら、全体の内容をつかみつつ、一文一文の精細な理解も惜しまないように、ミクロとマクロの両方の視点を忘れないでください。今と違うことや今と変わらないことなどを味わいながら古文を学習できれば、たくさんのことを吸収できると思います。

退屈だとかつまらないとか思って学習する人は、何かが足りないのです。何が足りないかわかれば、古文は得点源となってくれるはずですよ。そのために日々古文学習に研鑽を重ねてください。また、単純に文学史という知識問題も出されます。ある学部では合格のボーダーライン付近で、1点に数十人がひしめきあうこともあります。たった1問でも疎かにせず、1問でも多く正解させようという気持ちが合格につながります。

## ◎総括

入試問題としては、基礎的な知識を備えているかと同時に文章を読む力も備えているかを問うていて、真正面から受験生の資質を問おうとしているのがわかります。

出題される文章は大学入学後に読み書きするレベルと同じ程度のものが用意されているといいと思います。つまり、出題された文章程度の語彙力や表現力、論理力、論理構成力がみなさんに備わっているか試しているのです。逆に、それらの力がないと大学入学後苦しむのはみなさんなのです。そういう意味で出題された過去問は今の自分と大学入学を結びつける大きな指標となるわけですので、過去問をしっかりと利用して合格へとつなげてください。

また、分量にたいして時間はそれほど余裕がないかもしれません。普段から、現代文も古文も正確にかつスピードをつけて読む鍛錬をしておきましょう。選択肢もときには答を決めにくかったり選びにくかったりするものもあるかもしれません。しかし、満点を取らなくてもいいのです。合格ラインを超えればいいので、確実に正解できる問題を積み上げていけばおのずからそのラインは超えているでしょう。

たしかに入試を突破する努力は大変だと思いますが、みなさんの夢や希望につながる大きな一歩です。大学入学はひとつの手段でしかありません、とても大切な手段ではありますが。



## 4. 実戦演習

### ① 12月5日実施分〔一〕より

漱石の漢詩を紹介するのに、私は全く不適切な者でありまして、まずは漢文の素養が乏しい。漢字を知ることも十分ではない。ましてや言語学をやったわけではないから、同じ漢字の意味でも、中国の時代によってどう変遷しているか、日本に入ってきてどう変化したかもよくはわからない。漢詩を読む自分が、何らかの印象や感動を受けているのを、なぜそれが可能なかと不思議に思う方ですから。しかし、そんな矛盾を抱えた人間が話す方が、かえって耳に入りやすいかとは思います。(古井由吉『漱石の漢詩を読む』)

問 傍線部の「矛盾」の内容として、最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 漢文や言語学の素養もないのに、漢詩に感動している自分がいること
- 2 漢字もよく知らないのに、漢文の素養の乏しさを嘆いていること
- 3 夏目漱石による漢詩の存在を知らなかったのに、それを紹介すること
- 4 そもそも漢詩など読めないのに、漱石の漢詩を紹介しようとする事

### ② 12月6日実施分〔三〕より

この男と知り合ったのは昭和二十年の春だった。～生れ故郷の東京の下町を去って、ひとり弘前にあった旧制高校へ旅した直後、たまたま空襲で家を焼け出されて疎開してきた彼を、先輩として訪ねて以来のつきあいであった。

(中略)

「どこへ」

「うん、東京にいてもつまらないから、何となく旅をしようと思ってね」

「津軽へ行くか」

「行く。あそこは私の□□だから」

彼はふふっと笑った。(鈴木健二「紙屑とおかしな男」)

問 空欄に入るのに最も適切なものを次の中から選び、その番号をマークせよ。

- 1 あこがれの地
- 2 第二の故郷
- 3 曾遊の地
- 4 夢の理想郷

③ 11月21日実施分〔二〕より

むかし、若き男、けしうはあらぬ女（注 人目につく女、いい女）を思ひけり。さかし  
らする親ありて、思ひもぞつくとて、この女をほかへ追ひやらむとす。さこそいへ、〔い〕  
まだ追ひやらず。人の子なれば、まだ心いきほひなかりければ、とどむるいきほひなし。  
女もいやしければ、すまふ力なし。さる間に、思ひはいやまさりにまさる。にはかに、親、  
この女を追ひうつ。男、血の涙を流せども、とどむるよしなし。率ていでていぬ。男、泣  
く泣くよめる。

【A】 いでていなばたれか別れのかたからむありしにまさる今日は悲しも

とよみて絶え入りにけり。

問 以下の文は【A】の歌の〔歌意〕である。空欄を補うものとして、最も適切なものを次  
の中から選び、その番号をマークせよ。

〔歌意〕女が自ら去ってゆくのなら、こんなに別れがたくもおもわないだろう。□□、今  
日は、いままでのつらい思いよりもいっそう悲しくてならぬ。

- 1 けれど身分のいやしさが原因であるのだから
- 2 けれど無理に連れ去られるのだから
- 3 けれど私の心変わりが原因で離れるのだから
- 4 けれど私への愛想尽かしなのだから